

「古墳の石はどこから来たか」

佐野中学校 1年3組39番 杉本 朱音

1. はじめに

小学校2年の時に群馬に来た私は、山と古墳が多いなと思った。最初のうら古墳のことを入口と中に部屋がある大きな山だと思っていた。でも、色々な古墳に行くうらに王の墓であり、大きいほどえらい人ということを知った。でも1つ疑問があった。それは、どこから石を切り出したのかということだ。また私は山によつて種類が違ふということから石が好きだ。そこに目を付け、古墳の石の種類を調べ、どの山なのか特定してみたいと思った。

2. 調査方法

- ・東国文化副読本 (行ったことのある古墳について)
- ・行ったときにもらったパンフレット (その古墳をくわしく調べるため)
- ・インターネット (調べてのっていなかったこと)

3. 調査結果

私が行ったことのある古墳を年代別に分け、石の種類などによって分ける。そこから分かったことを別で書く。また、古墳の位置と石が切り出された山との繋りを地図で表したいと思う。
10基の古墳のうち4世紀が3基、5世紀が1基、6世紀が3基、7世紀が3基あることがわかった。

(1) 古墳を年代ごとに分けた表

<年表>

年代	300	400	500	600	700
出来事	浅間山の噴火 ヒミコが活役	全国に拡ス	榛名山二度噴火	山上碑が建てられる	多古碑が建てられる 金井沢碑が建てられる
古墳の形	円墳	→			
	前後円墳	巨大化	→		
石室	大穴式石室 大穴式石室	→			
	横穴式石室	→			

※1 頂点の下に穴をほり、石棺をおく。その上に土をかかせる。

※2 中に入る道(羨道)を通ると広い空間(玄室)がある。そこに石棺をおく。

年代の調査をみると、古墳が全国に拡スした4世紀ごろから群馬にも古墳ができて始めている。そのため、群馬にも奈良の方から伝ってきたことが分かった。

<4世紀ごろの古墳>

4世紀末

4世紀後半

古墳	① ぐんぱい やま 軍配山古墳	② せん、けん せき 浅間山古墳	③ おおつる まき 大鶴巻古墳
全長	約40m	171.5m(全国第2位の長さ)	123m
形	円墳 ○	前方後円墳	前方後円墳
石室の つくり	資料がないため 不明	竪穴式埋葬しせつだと 推定されている。*3	資料がないため 不明
天井石	資料がないため 不明	資料がないため 不明	資料がないため 不明
壁石	資料がないため 不明	資料がないため 不明	資料がないため 不明
羨道の石	資料がないため 不明	資料がないため 不明	資料がないため 不明
葺き石	資料がないため 不明	あるが種類は分か らない。	資料がないため 不明
出土品	内行花文金鏡 勾玉、管玉 金矢金族	円筒埴輪の石皮片 剣形の石製模造品	埴輪

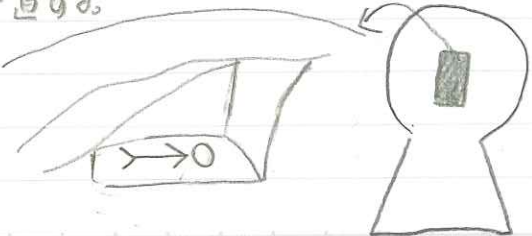
*3 前橋にある古墳が粘土槨のため粘土槨かもしれない。

<粘土槨とは?>

前橋天神山古墳(4世紀前半 前方後円墳)

粘土槨は、縦に掘られた穴の側で、石室を
つくりだすもの。直接、木棺や埋葬者を安置する。
底場や周囲を粘土で固めたもの。

古墳の場所はワパーシです。



〈5世紀ごろの古墳〉 全て保渡田古墳群のもの

5世紀後半

5世紀後半～6世紀

5世紀後半～6世紀初紀

古墳	④ ^い てふたご村 井出二子山古墳	⑤ ^は ま ^ん づか 八幡塚古墳	⑥ ^や しづか 薬師塚古墳
全長	108m	96m	105m
形状	前方後円墳 [⊗] 円墳 [○]	前方後円墳 [⊗] 円墳 [○]	前方後円墳 [⊗]
石室の つくり	竪穴式石室	竪穴式石室	竪穴式石室
天井石	—	—	—
天井石の 採掘場所	—	—	—
壁石	—	—	—
壁石の 採掘場所	—	—	—
石棺	舟形石棺:凝灰岩 ^{※4}	舟形石棺:凝灰岩	舟形石棺:凝灰岩
石棺の 採掘場所	観音山丘陵地	観音山丘陵地	観音山丘陵地
墓道の石			
墓道の石の 採掘場所			
冪石	あり	あり	あり
冪石の 採掘場所			




※4 舟形石棺は舟の形をした石の棺のこと

古墳の場所はワページで。

<6世紀ごろの古墳>

6世紀後半

6世紀後半~7世紀

古墳	① わたぬまのんの村 綿貫観音山古墳	② うらし村 漆山古墳	③ みのんつが 観音塚古墳
全長	97m	約70m	復元 105m
形状	前方後円墳 	前方後円墳 	前方後円墳 
石室の つくり	横穴式石室	横穴式石室	横穴式石室
天井石	牛伏砂岩	凝灰岩の巨石を 積み上げた	溶結凝灰岩 (黒見石・秋間石) 角閃石安山岩 輝石安山岩
天井石の 採掘場所	吉井		
壁石	角閃石安山岩		
壁石の 採掘場所	榛名の噴火の石		
石棺	—		
石棺の 採掘場所	—		
羨道の石			
羨道の石の 採掘場所			
葺き石	—		
葺き石の 採掘場所	—		

古墳の場所はワペーシで。

〈7世紀ごろの古墳〉

7世紀中頃

7世紀末頃

古墳	⑩ 柿の江 山上古墳	⑪ 保、とう、じん 宝塔山古墳	⑫ 比、ワ、せん 蛇穴山古墳
全長	約15m	60m	40m
形	山寄せの型円墳○	方墳 □	方墳 □
石室の つくり	横穴式石室	横穴式石室	横穴式石室
天井石			輝石安山岩(1枚の巨石)
天井石の 採掘場所	凝灰岩の 切石(大目)	輝石安山岩(玄室の 天井と壁付 1枚岩)	
壁石		角閃石安山岩 (漆喰あり)	輝石安山岩(漆喰あり) (1枚の巨石)
壁石の 採掘場所			
石棺	(観音山丘陵)	輝石安山岩	
石棺の 採掘場所			→ 棺を安置する棺台がある 牛伏砂岩
墓道 の石			→ 前庭が ある
墓道 の石の 採掘場所			
苔 き石	—	あり(墳丘)	あり(墳丘と中堤)
苔 き石の 採掘場所	—		

※全ての空白は資料がないため不明。「—」はその物が無いということ。

古墳の場所は7ページです。

(2) 石の説明と高崎の地形との関係

A. 砂岩 採出地: 牛伏層 (高崎市吉井町南方)

特徴: 加工が容易、入手が容易(落している)
・耐久性・耐熱性・耐水性がある
※ここは古代海の底で、たま、大砂が固まった。

B. 角閃石安山岩 採出地: 榛名山 (噴出した時の石)

特徴: 採掘が容易、耐火性・耐熱性がある
・加工が容易

(噴火による土石流で、流れてきたから利用した)
角閃石という黒い角形のものが多くまじっている安山岩

C. 輝石安山岩 採出地: 榛名山 (噴出した時の石)

特徴: 数が多い、耐久力がある
・加工が容易

(石の柱状の節理(節理)にそって落ちたものを利用した)
輝石という黒く細長いものが多くまじっている安山岩

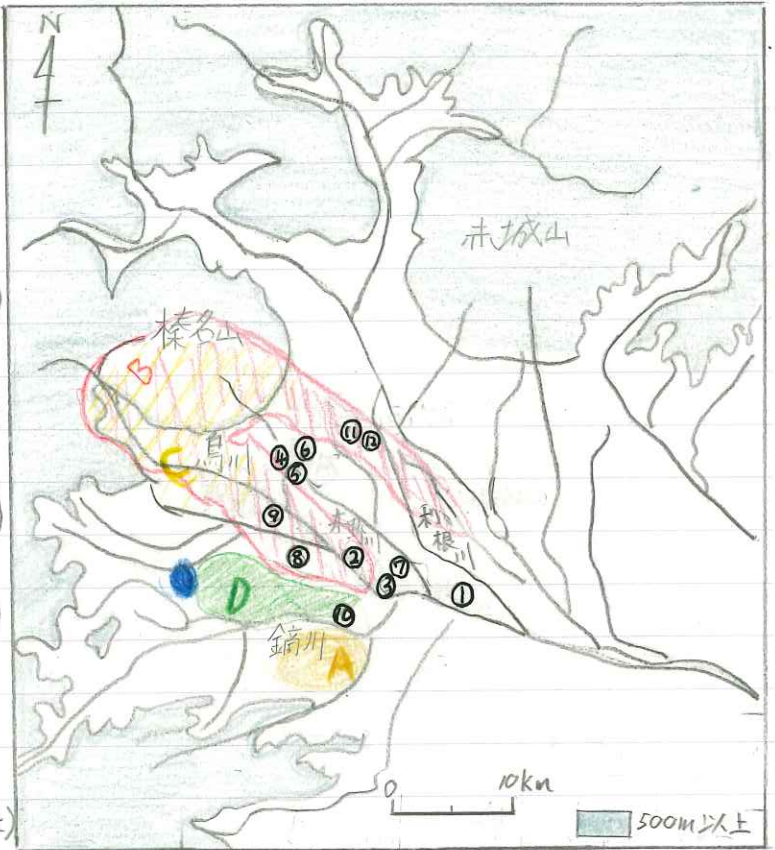
D. 凝灰岩 採出地: 観音山丘陵

特徴: 加工が容易、軽い
・耐火性がある

(積み重なった火山灰が固まってできた岩石である)

E. 容結凝灰岩 採出地: 里見石・秋間石

特徴: 凝灰岩よりはる硬い、加工は容易
(火山灰が自重と自熱で固まってできた岩石)



群馬の歴史から

〈古墳に使われた石〉

はじめに書いたように私は石が好きなので、山や川・博物館などで集めた石が沢山あります。その中で使われている石と同じ名前の石があり、観察してみました。



◦見た目より軽い
◦灰と石が混ざっている。
◦軽石のようにスカスカしている

◦きめ細かい

◦つぶが光っている
◦ひし形の角閃石と
糸田長い光る石が両方入っていると思われる

4. 考察

これまで調べてきたことから、古墳の石がどこから来たのか自分なりにまとめてみた。

古墳①～③の石室のつくりは4世紀ごろまで竪穴式石室がよく使われていたため、竪穴式だと考えられる。石棺があるのなら、烏川流域のため近くにある観音山丘陵の凝灰岩だと考えられる。ないのなら、粘土隙とも考えられる。葺き石があるのなら、烏川の川原石だと考えられる。

古墳④～⑥の石室のつくりは竪穴式である。また、石棺は観音山丘陵の凝灰岩だ。葺き石は烏川の川原石だと考えられる。

このあたりで榛名山の噴火が起こる。



古墳⑦の石室は横穴式である。石棺はなくそのまま埋葬される。壁は噴火による榛名の角閃石安山岩で、加工されている。天井は牛伏石砂岩をそのまま使用している。葺き石は烏川の川原石と考えられる。

古墳⑧の石室は横穴式である。また凝灰岩の巨石が使われており、それは観音山丘陵のものではないかと考えられる。(この部分かは分からない。)

古墳⑨の石室には榛名の角閃石安山岩と輝石安山岩そして、里見石・秋間石の溶結凝灰岩が使用されている。(この部分かは分からない。)

古墳⑩の石室には観音山丘陵の凝灰岩の切石を使用している。(この部分かは分からない。)

古墳⑪の石室には榛名の角閃石安山岩と光輝石安山岩を使用している。石棺は榛名の輝石安山岩を使用している。墳丘の葺き石は利根川の川原石だと考えられる。

古墳⑫の石室には榛名の光輝石安山岩の一枚岩を使用している。棺を安置する棺台は牛伏砂岩が使用されている。墳丘と中堤の葺き石は利根川の川原石を使用していると考えられる。

5. 感想

私は古墳の石はどこから来たのか調べてみて、年代によつて使う石が変化していることを知るこゝができた。川の流れや採出される場所の近くかによつて使っている石が分かんると思つていながら、これまで調べて考えたこゝがある。それは、群馬には巨石の採出された火山、巨石を運ぶのに使われたと思う河川が多数あり、古墳を建てる平地が広がり、古墳を建てるための人が多く住んでいたのではないかと思う。そのため、群馬が有数の古墳大国の一つになったのだと思う。私の父は奈良出身で祖父母は二上山の近くに住んでいる。奈良や近畿には沢山の古墳があり、そこから伝わってきたと考えられている。私は、どのように近畿の人が、群馬や関東に来たのか不思議だ。歩いて来たのか舟で川を渡つて来たのか疑問に思う。最後に、私は群馬に来て良かったなと思う。それは離れた奈良などとは気が合ふからだ。これからは沢山の古墳を守り、色々な人に難しい技術や美しさを知ってもらいたいと思う。

(6) 出典

- かみつけの里博物館 information
- 東国文化ガイドブック くまき東国文化ものがたり 群馬県2019.3
- 東国の雄 総社古墳群 前橋市教育委員会事務局文化財保護課 平成30年11月1日
- 榛名山 東南麓の古墳 : 平成29年11月-6日
- 高山市観音塚考古資料館 パンフレット
- 東国文化副読本 群馬県 平成28年4月
- 綿貫観音山古墳のすべて展 群馬県立歴史博物館 2018.8.13 現地配布資料
- 綿貫観音山古墳 パンフレット
- 群馬の歴史 県史10 出川出版社
- くまきの大地 生きたるをたぐねて 上毛新聞社
- 東国古墳時代の石研究 石島和夫 1995年 考査社
- さぬき市歴史民族資料館 考古室ガイドホームページ
- 産総研 地質図Navi 1/20万火山地質図
- 各古墳訪問時に撮影した現地説明看板
- 古墳マップ ホームページ